

介) 入会希望を審議して一同承認、②七月二十三日祇園八坂神社奉納会の各自曲目選定、③協会主催恒例秋季演奏会は物故会員数氏の追悼演奏会とし協会、四明会、一水会京都支部の三者共催で十月二十一日(日)京都市東山仁王門前本妙寺で開催、④十一月三日静岡赤心の演奏会に協会を代表して平井、矢吹、梅原、田中、植村の五会員が協賛出演。以上決定その他の打合せをしたあとと小妻に移りなごやかな雰囲気の中に八時散会した。

フチ才琵琶放送

六月十四日(日)午後三時十分NHK・FM、吹雪の敵! 荒井姿水、石重丸! 山下晴楓両氏。

四絃富士会琵琶詩吟大会

六月十五日(金)昼一時半横須賀市文化会館、後援横須賀琵琶連盟外。八甲田山の露! 顧問前田秋声! 月下の陣! 宮原! 敦盛! 齊藤旭彦! 武田武士! 藤間博水! 壇の浦! 今井旭柳! 戦艦大和! 大坪碧水! 本能寺! 土橋虎水! 新撰組! 小関香水! みゆき! 若林旭洋! 白虎隊! 小保内写水! 坂本竜馬! 森梓水! 井伊大老! 鈴木江水! 蓬萊山! 富沢光水! 城山! 采崎! 統水! 西郷隆盛! 松崎州陵! 竜の口! 平野鉦水! 坂崎出羽守! 梅沢向水! 吉野落! 山田! 幻水! 安達! 原! 秋山錦賜。外に詩吟、新体詩、俳句二題。

琵琶楽名流大会

六月十六日(土)正午東京日本橋東京証券ホール、主催日本琵琶楽協会(千五百円)。協会創立二十周年記念。白虎隊! 吉永松陽! 粟津! 原! 水野旭麗! 吉野落! 佐藤湘春! 俊寛! 金尾洲文! 若き敦盛! 齊藤旭芳、青木旭洲! 彰義隊! 本橋汕舟! 勸進帳! 小島泚水! 唐

人お吉! 内田旭章! 鉢の木! 吉田央舟! 湖水! 渡! 木原綾子! 曾我の里! 甲田勳水! 玉藻の前! 木庭旭山! 挨拶! 金田一春彦! 吉野落! 清川嵐舟! お市の方! 藤波桜華! 修善寺物語! 杉山旗水! 坂崎出羽守! 原島旭社! 常陸丸! 仲川秀邦! 大高源吾! 都錦徳! 伽羅の兜! 柴田旭堂! 小敦盛! 遠藤鶴東! 景清! 高田! 栄水! 小栗栖! 藤巻旭鴻! 西郷隆盛! 山下晴楓! 大楠公! 山崎旭翠。

訃報

倉林滝水(菊次郎)氏

五月二十七日脳溢血のため逝去、享年七十三。大正十三年山下瀧水氏の手ほどきを受け十五年半田錦崇師に師事。錦心流一水会仙台支部長として活躍中、九月開催予定の演奏会準備に奔走中であつたがこの急逝は周囲から惜しまれて、謹んで御冥福を祈る。(仙台市小鶴五輪出七)。

予告

- 京都琵琶協会七月定例茶話会 七月八日(同)午後一時、本部平井会長宅。
- 京都祇園八坂神社恒例奉納演奏会 七月二十三日(同)夕五時八坂神社能楽殿、京都琵琶協会協賛。
- 琵琶三美会演奏大会 八月十九日(日)皇京都四条山一証券ホール(会長矢吹旭美津女史)。
- 関西新進琵琶演奏会 九月十六日(日)皇大阪天満朝陽会館(主催小川吟水氏)。
- 物故会員追悼演奏会 十月二十一日(同)皇京都市東山仁王門前本妙寺本堂、京都琵琶協会、四明会、一水会京都支部共催。

あごと

降りみ降らずみの陰気な梅雨も程なく終りを告げねばならぬ。旧暦の五月初旬から新暦七月初めにかけての北海道を除く日本列島は、毎年の事ながら長雨でうんざりする。梅雨の入りは立春から数えて百三十五日目に当り大体六月十日前後になる。梅の実がみえる頃の雨というので「梅雨」と云うが、ジメジメと湿気を帯びて湿度などにかびが生えたりするため「微雨」とも書く、と、もの本に書いてある。長雨の中で庭に咲く紫陽花を眺めていると、うっとうしい気分も一時安らぐ思いもするが、兎もあれ湿気を嫌う琵琶楽器のお守りにはお互い一苦勞させられる。閑話休題! 去る五月二十七日京絃三〇〇号記念演奏会に聴きに来た聴衆の中で琵琶演奏や周囲の空気に感動して丁寧な礼状を京絃社にお寄せ下さった方が相当あった。その中に、感々大阪から来聴された一琵琶愛好者からの、当日の感想を卒直に述べられた礼状は、他山の石としてそのまま処理するには勿体ない内容のものであつた。次号にでもその全文を載せたいと思つている。琵琶人は頂門の一針としては是非熱説玩味されたい。六月号「あとがき」でお詫して置いたが京絃三〇〇号に下さったお祝詞の未載分を本号に掲載させて頂いた。改めて御厚志を深謝致します。八月号の暑中見舞交礼を精々沢山お申込み下さって同志相互間の旧交を温めさせて頂きたい。

琵琶 機関紙 京 絃 第三〇一號 京絃社

琵琶 (九)

忘れられんとする音の世界



村山道宣

肥後琵琶 (下)

山鹿さんは二十九歳で結婚した。結婚する前は筑後を中心に廻っていたが、子供が出来てからは、南関町や山鹿市など、王に家の近辺を廻るようになった。また山鹿さんの琵琶師としての活動は、大変幅広いものであつた。座敷琵琶や、わたまし、釜敷いの他、追善供養、観音様、御大師様、神社の夜籠り、等様々な機会に招かれ、琵琶を弾いた。仏事には、般若心経、懺悔経、舍利経、三十仏などの経文や仏名を唱えた。また、村の敬老会や米寿の祝い、その他の祝事の折りに琵琶を弾いたこともあつた。

戦前のことになるが、夏から秋にかけての時期には廻りきれない程、沢山の仕事があり、くじ引きで、廻る家を決めたこともあつたと云う。この様に肥後琵琶は各地で盛んに行われ、人々が琵琶に親しむ機会も数多くあつたのである。しかし戦後、特に昭和三十年以降、農村の人々の生活や娯楽の質が変化し、神仏に対する信仰が薄れていくとともに、琵琶師達の活動の場は急激に少なくなって行つた。そして肥後琵琶は、人々の記憶から次第に遠ざかって行つたのである。かつて人々にとって、琵琶師達は面白い語り物を持って来てくれる芸能者であり、また、祓をするこの出来る呪的力者でもあつた。また山鹿さんにとって琵琶の語り物を少しでも数多く憶えるということや、わたましの正しい詞章を覚えるというようなことは、おろそかに出来ない問題であつた。語り物を面白く語るといふことや、祓の権威が山鹿さんの日々の生活を支えていたのである。

私は、さりげなく話される山鹿さんの話の中に、半世紀にも及ぶ琵琶師としての生活の厳しさと、それに立ち向って来た旺盛な生命力とを垣間見たように思つた。また、その話の内容は、肥後の琵琶師達のかつての生活を彷彿とさせるものであつた。山鹿さんの内には肥後琵琶の世界が現在もなお生き続けている。山鹿さんには琵琶師として、これまで体験して来たことの全てが昨日のことのように、ありありと思ひ出されるのである。浄瑠璃の好きだつたじいちゃん、天草の初太郎さん、一緒に門弾きして廻つた仲間の琵琶師達、親切にしてくれた農家の人達……。

山鹿さんは昭和五十一年の秋、東京の国立劇場で催された琵琶公演に、同じ琵琶仲間の中藤吾さんと共に出演した。大熱演であつた。私は、山鹿さんの演目が少し乗つてきたところで、思わず拍手をしていた。私には、その拍手の音が山鹿さんの耳に確かに届いたように思えた。



### 美少年に見る正義の印

一 牛若丸と弁慶

佐藤 忠 男

日本の大衆文化の伝統のなかには、美少年というものに独自の役割が与えられていることがしばしばある。天草の乱の天草四郎は正体のはっきりしない人物だが、兎に角美少年だったと語り伝えられている。美少年が反乱の先頭に立つと、民衆がこれに従って命を投げ出して戦う。そういう美少年伝説の一番くつきりした形になっているのは、多分義経伝説であろう。「平家物語」では源義経は醜男だったように書かれているが、後に民間伝承化して書かれた「義経記」では、たぐい稀な美少年とされた。しかしそこに描かれている義経の性格はひどく矛盾していて、牛若丸と呼ばれた少年時代には、天下無敵の武蔵坊弁慶を軽く降参させるほどの武芸の達人ぶりを見せているのに、兄の頼朝に追われて東北へ落ちのびる後半では、ぜんぜん無力で女々しい貴公子になっていて、弁慶はじめ部下たちの豪勇に守られ、やっと危機を脱する。

色々伝説が合成されたために、こういう矛盾が生じたのだと考えれば納得はゆいだが、この矛盾から空想を広げても楽しい。本当は弁慶は、五条の橋では牛若丸にわざと負けてやったのかも知れない。丁度、大人が子供と遊んでやる時、わざと負けてやって子供を喜ばせるように。そう考えると、後半、弁慶がまるで、弱い貴公子を大切に守り守りするようにしてゆく態度も辻褄が合うことになる。

旗印という言葉がある。人々が何かの行動をする時、それが正義の行動であるということを表すシンボルが必要である。それが旗印と呼ばれる。日本の大衆文化では、美少年は大低正義の旗印である。天草四郎は天草の乱を起こした民衆の旗印である。同じような意味で、もし弁慶が民衆の代表であるならば、牛若丸は弁慶にとって正義の旗印だったかも知れない。大石良雄と浅野内匠頭との関係も、それに似ている。

美少年は純粋な正義感のシンボルであり、彼等は高貴な血筋の生まれでありながら不遇であることが多い。民衆の正義感の民衆の代表であるような荒くれ男によって表現されることは寧ろ少ない。それより、正義の旗印であるような美少年に、荒くれ男たちが従うという形をとることが多い。強いがもう美しくなくなった大人たちは、いつの時代にも、美しくして純粋な子供に、正義のしるしを見たいと願って来たのかも知れない。



### 祝。京紘創刊三百号

錦心流琵琶

花 俣 圭 水

〒330 浦和市別所四丁目一番十五号  
電話〇四八八(六一)八〇一九番

### 我が道を行く

六十五年(六八)

西郷 天 風



さて、ともすれば堅苦しくなり勝ちな薩摩琵琶の間に、打解けた人情話のコンビは物淋しい異国の田舎、それも敵地の村里に駐留する兵士たちにとっては、又と得難い慰安となり、昨日は東、今日は西と、トラック上のステージは大喝采に送られつつ、数週間を走り廻って、北支も徐州に近いパンブと云う部落

に着いた。

此処で思い出したのは、かつて、日華子女親善協会本部で、長尾千代松軍医(これは彼の「川中島」で有名な武将、幼名長尾虎千代の後裔で日本神道界の権威)から頼まれた土産品の事で、私の琵琶の大先輩でもあったお方が、若し北支方面近く従軍の折りがあつたら、パンブ附近に有名な柘榴の産地がある。そのザクロを土産に頼むぞ。あれはうまかつたなあ、天下一品だ。と、その温情溢れるにこやかな顔だった。

そこで、この巨大形の柘榴十個を求めれば、その重さ、琵琶のケースに比すべくもなく、直ちに帰途に着くしかなかった。

かくて途上二、三の集りに立寄り上海に戻ってみれば、数日前或る部落で知り合いとなり、寒山寺見学を約束した久保篤之助氏から「蘇州で待つ」との連絡があった。よき道づれを得た私は、早速蘇州の野戦病院で待ち合わせ、兎に角蘇州見物を先きにと院長に相談すれば、途中まで案内を付けて呉れるほど、蘇州城と病院とは遠く隔てていたのであつた。

大体支那の旧都ともなれば、その殆どがあの広大な平野の中に高い城壁を以て、数キロに亘る地域を区切り、四方に城門を構え、城外との交易によって数万人の都会生活を営んでいるのが例で、蘇州城などはその中の典型的存在だったろう。

兎に角、一応城内の目ぼしい辺りの見物を見つけた私達は、正門入口に近く聳え立つ五重

の塔ならぬ十余段も重なる珍らしい塔下に佇めば、折よく二台の人力車(支那ではヤンチヨイ又はワンポオチヨウと呼ぶ)が現われた、これ幸いと寒山寺行きを命ずれば、彼等も心得たもので二の句も待たず走り出した。

かくて、城の四方を囲む堀川(クリーク)の満々たる清流を右にした正門通りを西に、約二時間ほどの後小さな部落に降ろされた。そこは農村の入口で、小規模ながら食糧品や雑貨等の商店が密集し、クリークの川幅も広く、第一に目を驚かしたのがこの辺に不相応に高く、雄大な大鼓橋であつた。欄干をはじめ総て石材で、古色蒼然たる姿も見事である。これこそ漢詩で有名な「月落ち烏啼いて霜天に満つ」を彷彿たらしめ、江風の漁火就眠に對す、の舟溜りを目前にした数十戸の村落で、「楓橋」と呼ばれる所であつた。爪先上りの橋の袂を見上げれば、一本の楓らしい古木が晩秋の空高く繁っており、太鼓橋外に淀むクリークの流れは、遙か奥地よりの流れと合してT字形をなし、左右に分れて果てしない。その左の沿岸を行けば、程なく寒山寺参道へと突き当たるが、そこは見渡す限り枯草も見せぬほこり臭い畑の中の村道の真只中に、二原色美事な二段屋根の山門が聳え立つ。これぞ名にし負う寒山寺の山門である。

一足山門内に踏み入れれば、古色しるし石畳が本殿へ一直線。宗務所では石摺を手に「ここでお求めになれば寒山寺の朱印が押してあります」と私達の関心をそつたが、やがて

後方を意味あり気に指すのを振り返ってみれば、黒々と建つのは石摺で見る詩碑であつたが、それより私の眼についたのは、壁に塗り込んである文字であつた。

それは火焰に焼け崩れた跡歴前たる石詩碑の破片を寄せ集め、六尺大の原形に近いまで塗り上げたもので、思うに超越在世当時の建碑と見られ、大小甚だしき草書体の健筆は洵に自由奔放、これぞ超越の真筆に相違なきものであろう。

宗務所の反対側には古びた鐘樓があり、そこに通ずる廻廊の間より遙かに見ゆる裡の屋根に、見覚えのある書体の文字を発見し、近づき見れば五尺角の大理石三枚に、深々と彫り上げた「寒山寺」の大文字は、水戸の黄門光圀時代に有名な藩臣で漢学者、藤田東湖得意の行書体で、次ぎに述べる蘇州と寒山寺とに相對する三角地点の聖地、虎丘山にある釣鐘樓内で巨大第一を誇る梵鐘も亦、水戸黄門送与のもので、水戸在太田の鑄物師鑄造とあり、共に現在では水戸人すら知る人甚だ稀な逸品である。

### 言(41)

静御前 京の白拍子磯禪師の娘を恋慕しながら京都府網野町入舟の里で果てたとき未だ二十余歳の散るには惜しい花の命であつた。

祝・京絃創刊三百号(続)

横須賀 山田 幻水

私が尊敬と親愛の念を抱く「京絃」が六月に創刊三百号記念特別号を出されるという。海にお目出度い限りで、謹んでお慶びの辞を申し上げる。

昭和二十九年以来二十数年、今日まで一回の遅刊欠刊もなく琵琶界のため尽くされた功績は実に顕著偉大で、私は茲に最上の感激と最高の感謝を捧げて止まない。長期に亘る刊行は決して容易なものでなく、寧ろ苦闘であり努力の結晶であつたとお察しする。不拔不屈の精神が今日の輝かしい成果を齎した訳である。

およそ世人は何事に抱らず他人に向ける眼は冷めたい。殊に機関紙発行などという事に対して持つ感情は、特殊的に歪んで観ることが多分であると窺わしめる。辛い辛い忍従の思いで毀誉褒貶に堪えられたことと云う。

ともあれ、私が「京絃」に親近感を抱く所以は、京絃が琵琶界一般あらゆる段階に無差別的解放を示してこれを受入れ、そして誰もが気易に飛び込んで行かれる如き編集振りが魅力であるからである。又経済性を考慮に置かず琵琶界の環境(琵琶に依る生計が困難な実状)を克く察知しての順応的態度、即ち斯界愛より生れた献身的情愛的な気骨さが

尊敬の的と云える。

最近青少年の非行化が社会問題となつていゝるが、その原因が那辺にあるかを研めるとき、私は曾っての日本道徳が如何に正しかつたかとうなづく点があるように思われてならない。これは独り私のみならず、是(せ)として肯定する人も多々あると確信する。

幸い琵琶歌には健全な道徳意識を含んだものが数多いので、是非青少年層への琵琶芸能の普及を要望する。それが非行防止にもつながら一策と思ふ。それには「京絃」の存在が最も重要なものになつて来る。故に私は京絃の末長き健在を衷心から祈る次第である。

福岡 嶺 旭 蝶

京絃三百号発行お目出度うございます。謹んでお祝い申し上げます。永年の御執筆御苦勞様でございました。これからも御発展斯界のため御尽力下さいますようお祈り致します。筑前琵琶発祥の地福岡では、琵琶の普及と保存に日夜励んでおりますが、これ偏へに京絃御垂教の賜ものと感謝して申上ります。今後共よろしく御指導の程お願い申し上げます。

大阪 石橋 旭 蝶

このたび琵琶機関紙「京絃」が六月号を以て創刊三百号を迎えられ、実に二十五年間の長きに亘り琵琶界振興の為め身命を賭して尽くされた主幹植村實水氏の御努力に対し、心から感謝の意を表するものであります。

青森 柴田 富山

京絃三百号刊行を心からお祝い致します。

琵琶の機関紙と云えば大正十年頃福岡の古野氏がこれを出して居り私もよく読んで勉強していましたが、現在では東京の「芸の友」と関西の「京絃」だけが琵琶人の指針として愛読され重宝がられて今日に及んでいます。大正十年頃は琵琶界の全盛期で私も筑前琵琶に志した一人であります。其後時代の移り変りと大東亜戦争のため一時中断、戦後は琵琶界は振るわず、詩吟民謡等が急激に盛んになり現在琵琶から詩吟に変わつておられる先生や琵琶と詩吟の両道の先生などがあります。生きたる為には止むを得ないというものの、これでは到底立派な琵琶の発展は望みません。

琵琶には琵琶としての道があり、詩吟には詩吟としての道がある筈です。琵琶人はもともと真剣に考えてその素晴らしい伝統芸能の発展に努力して行かねばならないと思ひます。丁度十年前の京絃一月号に植村主幹の年頭の辞の一節に「老人だけでなく若い人たちに興味を引くような、時代に適応した琵琶新作歌詞を公開するなど我等の努力次第で急速に発展を取り戻すことが出来よう、同時に琵琶歴何十年を誇る人達は宝の持ち腐れとならぬよう積極的に努力して貰いたい」とあります。

「京絃」創刊三百号のお祝詞を申し述べ併せて今後一層の御発展と御多幸を祈ります。

主幹者首め御紙関係の方々の御苦勞の程を偲ぶと共に、今後も永遠に継続斯界に貢献下さるようお祈りいたします。

次ぎに只今の所感を「吟詩」(詩吟の節で歌えるようにつくる、カナまじりの日本文によつてつくる詩ぐらの意味)に託して記念させていたきたいと存じます。

京絃三百号記念吟詩(律詩形)

琵琶樂、昔の面影消ゆと雖も、想当人口今も受けつぐを、知る、もの、陰替は時運によることも多く、弥猛心も、いかにせん。人の、言えるあり、われのみ光らんとする、星は、消ゆと、いたずらに、あせらず、もの命を、磨きゆくが、大事ならん。

同じ歌詞を、一は吟詩により、一はメロデーによりて、祝いしことありしに、人の耳、未だ吟詩を、喜びしことありき。

(註) 一字あけたところで節をながめらる。文語体であるが、現代かなづかりによつた。

名古屋 阿部 秋子

青葉若葉さわやかな好季節、琵琶機関紙京絃が創刊三〇〇号を迎えられますこと誠に自出たいことと心から御祝い申し上げます。簡単に三百号と云つても実に二十五年、この間一回の欠刊もなく毎月発行を続けられ、栄

ある今日に到達された訳で、永年にわたる植村主幹様のたゆまぬ御努力に対し深甚の敬意を表するものでございます。どうか此上とも私達琵琶愛好者のよき指針となり、末永く刊行をお続け下さいますようお願い致します。

神戸 田中 敷水

先づ心からお目出度と申し上げたい。これをエポックとして今後益々御発展飛躍されん事を祈つてやみません。今回は京絃社長自祝をも含めて京都琵琶協会の後援のもとに「各流派琵琶演奏大会」を五月二十七日華々しく開催され、社長自ら「花の蕾の白虎隊」を前奏、「灰木」の熱演で終演を飾り、その間東西の大家、京阪神の名手に依る演奏は洵に聴きごれえのある立派なものにて流石であった。

京絃三〇〇号を祝福すると共に、出来れば次代を担う若手ホープの広く各流派にわたるリサイクルを強く望むものである。さきに、現代琵琶人大鑑を発行され好評であったが、この際想を新たにして続編を企画されてはと望むものであります。

最後に、琵琶機関紙として広く琵琶人、琵琶ファンに愛読されるより質量ともに成長されん事を祈つて祝詞に代えます。



来たる八月一日発行の本紙は例年の通り夏季特別号とし紙数を増して内容豊富の記事を満載、併せて暑中交礼号として貴名を掲載させて頂きたいと存じます。

夏季特別号発行について

遠隔地同好者間の旧交を温ため、且つは京絃援助の思召しをも含めて多数御協賛下されたく、別紙申込用紙に料金を添え七月十日迄に御申込み願います。

金比羅宮会館

京絃社主催

琵琶演奏会感想記

五月二十七日(日)、京絃創立三〇〇号記念各流派琵琶演奏会は好天気となり、五月の太陽は樹々の梢からさし込み、境内はまことにすがすがし。

舞台は金屏風を背景に赤毛せんが敷かれ、二十五周年を祝い美しい生花が両側に立ち並び、会場は喜びと清純な気に漲る。

○時半、平井京都琵琶協会長の開会の辞に開演。植村主幹「花の蕾の白虎隊」は若々しい表現の中に峻烈さがあり、聴衆を肅然たらしむ。応援の協会員たちは次々と舞台上に座し、

個性豊かに存分演奏し、聴衆を心ゆくまで楽しませた。

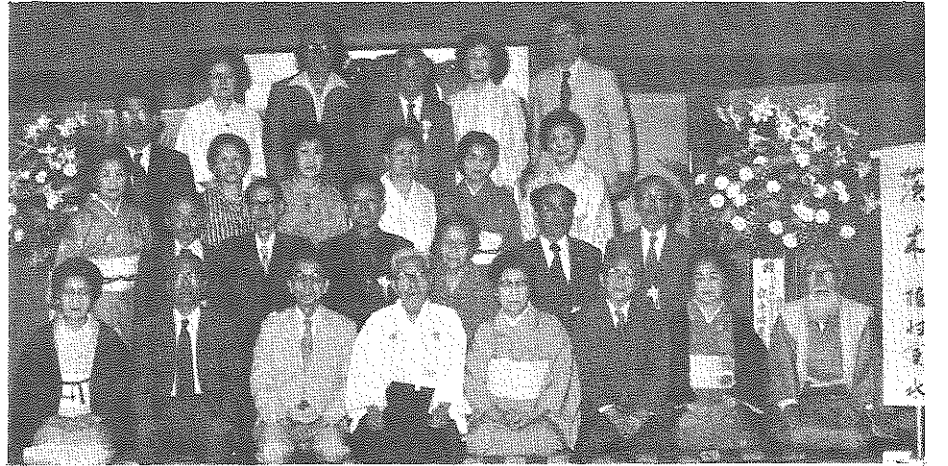
牧雨水氏の祝電披露が終って、二才を越え、たひ孫さんから植村王幹に花束贈呈があり、うるわしい光景が見られた。会主植村王幹の挨拶を待つ。感懐をつぶさに、しかも卒直に述べられる中にも、いかにも立派な人柄をよく伺い得る。

東京前田秋声先生の祝辞は琵琶芸道を通して分り易くお話しされ、続いて「花売翁」を拝聴す。妙なる響と美しい芸風に思わず心からなる拍手が送られた。

場内は超満員で遠く市外からも、またなじみの顔振れで賑わぐも極めて静粛。時々拍手と冴えた掛声に力づく。

賛助と出演の四先生、ごなたも京絃社とは親しい方々で東京、若宮旭登師の洗練された力のこもれる熱演に感動し、静岡赤心流鶴翁師の豪放にして躍動あふれる演奏拝聴。東京鈴木流泉師繊細微妙な撓さばきは神に入る。山崎旭幸師いつに変わらぬ力づくよい名人芸として拝聴。会主植村王幹、得意の名曲「茨木」は美声暢達、感無量と申しましたようか。

五時半閉会の辞鴨水、「こゝで王幹のご長生を更に心より祈りする。」、一同より拍手、関係者一同の撮影、ご親戚一族の方々のうるわしい記念写真から和やかな懇親会に移り、前田先生「万歳」発声により開演、祝福ムードはとみに高まり、盛會裡に滞りなく終了、散会す。(五四、五、三一)(馬場鴨水記)



(写真説明)敬称略) 右から(前列)峰口高昇 荒木旭媛 鈴木流泉 山崎旭幸

植村真水 前田秋声 赤心流鶴翁 若宮旭登 (二列目) 馬場鴨水 木下皇水 植村夫人 平井春嶺 牧雨水 前田旭城 中島旭穂 (三列目) 山岡旭清 矢吹旭美津 水内熾水 梅原旭濤 平井夫人 楊嶽水 (四列目) 戸田旭公 菅旭香 桜井旭富 田中鵬水 佐藤旭天紅。

「京絃」創刊三〇〇号記念  
各流派琵琶演奏大会

遠く昭和二十九年第一号発行以来今日まで二十五年間、四半世紀に亘り毎月一回発行を続け、しかもこの間一回の遅刊欠刊もなく本年六月号を以て三〇〇号に達した琵琶機関紙「京絃」が、京都琵琶協会の全面的応援により京絃社の主催で五月二十七日(日)屋零時半から京都市東山松原上ル安井金比羅宮会館に於いて盛大に首記が開催された。この日、撰氏二十一度という爽やかな新緑の日本晴れに恵まれ、風邪等による三人の欠演者を除き左記の通り順次演奏、二時頃には文字通り立錫の余地もない超満員となり、会場保は整理に汗だくの体であった。

応援出演の京都琵琶協会々員諸氏はこの演奏会の主旨を祝して熱演に次ぐ熱演を繰返し、



来賓四先生の名演にはそれぞれ堂を揺がすばかりの拍手が送られた。また祝詞を述べるため東京から態々西下の前田秋声師にお願ひして臨時出演の快諾を頂いたが、これまた極めて好評を博し、美声と名調子で大向うをうならせた。

五時半全演奏終了、記念撮影のあと乾盃、小宴が開かれ七時前日出度く閉会散会した。

なお当日は植村会主の実子達三夫妻、孫達三夫妻、それに曾孫四人の計二十人の全員が出席して入口の受付その他の雑用にいそしんだが、植村王幹の挨拶に際し二歳の曾孫がよちよち歩いて贈呈の花束を捧げ全員から大きな拍手喝采が起るなどほほえましい雰囲気皆を養ませたのは思わぬ収穫であった。

花も蓄の白虎隊 植村 (以下応援) 戦艦大和 桜井旭富 桜狩 馬場鴨水 五条橋 山岡旭清 扇の的 楊嶽水 小栗栖 木下皇水 桶狭間 牧雨水 伽羅の兜 梅原旭濤 羅生門 矢吹旭美津 その日の東郷大将 平井春嶺 挨拶 植村王幹 祝詞 前田秋声 (以下来賓) 売花翁 東京前田秋声 柳の精 一同若宮旭登 鉢の木 静岡赤心流鶴翁 壇の浦 東京鈴木流泉 安宅 大阪山崎旭幸 茨木 (会主) 植村真水。



大和久米寺大祭に琵琶献奏

五月三日(日)屋一時大阪琵琶同好会協賛。赤垣源蔵 水谷旭甫 石重丸 作花旭友 鴨川の露 辻旭城 羅生門 石橋旭嶺 川中島 田中敷水 新撰組 中島旭穂 柳の精 天津八千代。外に浪曲、日舞、剣舞など。

久米寺は聖徳太子の弟来日皇子が推古天皇眼病全快お礼のため創建したという縁起寺。

故伊吹正陽氏忌明法要

四月逝去の京都琵琶協会員伊吹正陽氏の忌明法要が五月十三日西加茂の別宅で営まれ協会から平井会長をはじめ馬場鴨水、田中鵬水、梅原旭濤、矢吹旭美津、牧雨水、植村真水の七氏が参列し、僧侶読経のあと故人が残されたテープ数曲を聴き又絃友の右七人がそれぞれ仏前に一曲を演奏して故人の霊を慰めた。

東都旭会第六回演奏会

五月十九日(日)屋二時東京板橋区民会館(千円)。旅の芭蕉 旭扉 絃旭陽 旭神 月に偲ぶ 旭千恵 旭季 絃旭鴻 新琵琶染舞曲 一番 旭彰 外四人 琴笛各一 二〇三高地 旭呂 旭容 絃旭鴻 外二人 茶道松風の曲 旭星 絃旭陽 外二人 琴、点前 扇の的 旭陽 巡礼お鶴 旭恵 旭恵 絃旭史 玉藻の前 旭英 旭史 絃旭鴻 外二人 琵琶歌謡 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

日本芸術琵琶普及会五月例会

五月二十日(日)屋一時東京文京区大塚の貸席京屋。門琵琶外弾法 錦幽 城山 内田隆章 門出 坂入俊風 川中島 伊与田詩水 棄児 山崎錦幽 鉢の木 青木早水 須磨の敦盛 杉山旗水 西郷隆盛 原田旭鳳 吹雪の歌 日比錦輝 木村重成 高田栄水。以上研修を終り小宴の後六時散会。(六月は休会)。

錦心流青年琵琶会

六月一日(日)夕六時酒田市日吉町港座、共催一水会酒田支部、酒田琵琶愛好会、後援酒田市教育委員会外。金剛石 高見 本能寺 中鉢 白虎隊 阿部志水 竜の口 旅河菖水 恩讐の彼方 大阪中野淀水 荒城の月 土田宴水 西郷隆盛 名古屋丹野鏡水 城山 池田青水 血染の聖教 福井内田景水 秋海棠 山本周水 蔵流島 青年部長佐藤智水。外に竹林会の琴、三絃、尺八、点前の五人による茶音頭が披露された。

定例研究会

六月十日(日)屋一時東京新宿洲鳳会館、主催日本琵琶協会の(千円)。若き教盛 青木旭洲 湖水乗切 青木早水 青葉の笛 網野桜苑 堅田落 松元旭川 六月二日の朝まだき 伊集院牙城 俊寛(下) 高田栄水 講評 平野健次先生。

京都琵琶協会六月定例茶話会

六月十日(日)屋一時本部平井会長宅。馬場鴨水、梅原旭濤、矢吹旭美津、山岡旭清、牧雨水、荒木旭媛、桜井旭富、木下皇水、水内熾水、平井春嶺、植村真水各会員の外神戸田中敷水、京都林旭萌、故伊吹正陽夫人が列席し数氏研修演奏のあと錦心流田中敷水氏(木下会員紹介)、筑前林旭萌女士(荒木会員紹